

## イエローミニトマト

蒔く時期 : 3月~4月

収穫時期 : 7月~12月

## 特徴

イエローミニトマトは貴重なエアルーム種で、フルーティーな甘酸っぱいミニトマトです。キッチンガーデンからプランター栽培、家庭菜園に向けた誰でも簡単に栽培できる人気種です。

## 育て方

## 【用土】

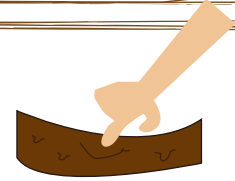
- 培養土に早めに苦土石灰を入れておきます。(苦土石灰が入っていない培養土の場合) トマトの専用用土ならそのまま植え付けができます。トマトなどの果菜類はチッソ分の多い油かすより、リン酸を多く含む骨粉を少々多めにすると実なりがよくなります。米ぬかを主体にしたぼかし肥料(米ぬか主体)を1/3ぐらい普通の野菜専用の用土に混ぜています。



## 【植え付け】

生育温度 (最適) 26℃~30℃程度

- 1 植え付けの容器は菜園プランターで、深さがあるものがおすすめです。
- 2 9号~15リットルぐらいはいる容器なら適量になります。
- 3 横長プランターの場合は2本、鉢なら1本植えます。



## 【置き場所】

- 日当たり、風通しの良い場所が最適です。風通しの良い場所は病気予防になります。

## 【水やり】

- 土が乾いてきたらやるのが基本で、成長するにしたがって量を多くします。でも乾燥ぎみに育てると小粒になりますが、凝縮されたおいしいミニトマトができますよ。



## 【追肥】

- 植え付け時には肥料は少なめか全く施しません。トマトは最初から肥料(特に窒素分)を施すと茎葉ばかり茂ります。葉の勢いが良すぎると花付きが悪くなり、実も少なくなります。ミニトマトは1段目のトマトが大きく育ってから追肥をはじめます。1ヶ月に1回が目安。果菜用の肥料をトマトの様子を見て適量施します。トマトは生育期間が長いので、肥料を切らさないことです。有機肥料を追肥にするときは効き目がすぐに現れるぼかし肥料や鶏ふんが良いでしょう。

## × 病害虫

モザイク病  
条班病  
黄化エン病  
アブラムシ  
ハムシ

## 【支柱が必要なミニトマトの場合】

- わき芽が出てくるのを摘み、一本仕立てにして支柱を立てます。収穫したトマトの下の葉は摘み取って、風通しをよくします。画像のように鉢に沿ってくるりと巻く方法でも長い支柱を立ててもお好みで。